□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム はなみずき ※

日付 平成17年3月3日

評価機関名 特定非営利活動法人
高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会
LIFE SUPPPORT推進グループ
評価調査員 在宅介護経験16年
評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

玄関ホールから壁のような大きなドアを開けて入ると、キッチン兼リビングルームの大きなテーブルに利用者全員が集まっている。職員を含めて8～9人なので、お互い話し合ったり触れ合ったりするのは、程よい家庭のような雰囲気がある。利用者は6人と少人数で、殆んどの人が近隣周辺の人達である。設立以来4年目になり一緒に暮らしているので、職員は利用者一人ひとりを知り尽くしており、利用者同志も和気あいあいで、皆んな落ち着いた表情をしている。この間、利用者の心身のレベルが予想以上の水準維持されていることは、職員が認知症ケアの基本を熟知して、利用者一人ひとりの自由な意志を尊重し、きちんとした見守りを続けた結果だと感じた。

「他の病気の人等に比べて認知症のお年寄りには、こちらが癒されます。･･･。」と言う職員の一人のつぶやきに感無量。

大規模な福祉施設や学院の一画にあり、学院から孫や曾孫のような学生たちが研修を兼ねてホームを訪問して、散歩やゲームを楽しんだり、お話し相手になってくれるので、他のグループホームと違って新鮮で気持の良いバリエーションをもたらしてくれる。利用者にとっては生き甲斐を感じる境遇と云えるのではないだろうか。“余り力まず普段の生活を‼残っている能力で普通の生活を‼”といった常識を感じるグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

①利用者は、リビングルーム内のテーブルに居ることが多いので、ホーム内外の色々な場で過ごせるような工夫が欲しいと思う。

②家族から見れば居室や共同空間に、絵や観葉植物などの飾り気を増やして、心を明るくする工夫が欲しいように思う。

③利用者の意見の尊重や自然体での運営は最も大切ですが、もう少し利用者の残存能力を生かして楽しく過ごせる時間帯があっても良いのではないかと感じた。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目：グループホームとしてめざしているものは何か

利用者一人ひとりの持つ能力や力量を把握し、想いや気持を尊重して対応している。それらを壊さぬよう周りからサポートする姿勢がある。それらを通じて身体的問題や認知症の課題を支援していこうとしている。6人という小規模のせいか、大きなテーブルを囲んで家族のように語りながら過ごしている雰囲気からすると、職員も一人ひとりの身体状況や気分が一目瞭然に汲み取れる強みがあるようだ。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目：入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

居室は掃き出し窓で明るく開放感がある。行き届いた清掃で清潔感がある。ベッド･タンス･小さなテーブルと椅子等は備え付けなので利用者にとっては有難い。

各部屋から出た所は、皆んなの集まるリビングルームの空間になっているので、利用者も戸惑うことは少ない。リビングルームに続いて、南に面した明るい陽光が入る畳敷きの居間がある。ここで陽なたぼっこをすると気持が良さそうである。居間やリビングルームと居室に、生活の様子を語る写真や作品を掲示して欲しいと感じた。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持		○
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目：一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

「認知症高齢者に対し、ストレスをかけることは良くない」とする視点で、利用者との関わり方をするというのが運営責任者のケアの基本であり、管理者と職員は、利用者の生活歴、身体状況、認知症状態など家族の意向も十分汲み取って、1人ひとりの介護方針、計画を作り、日々の健康管理と生活記録、介護記録から利用者の経緯がきちっと把握できるようにしている。

職員は、利用者が落着いて生活できる場作りや環境作りに努めている。

このグループホームは大きな医療･福祉施設･学院の中にあり、人材の質、量共に恵まれているので、学生等の若いパワーと利用者が頻繁に接触出来ることも楽しい生活と生き甲斐が感じられる。比較的元気な利用者と昔の映画が話題になり、映画の題名や俳優の話で盛り上がった。「こんな生活は久し振りにしたわ･･。楽しかった･･」と言うつぶやきがあった。このように昔の生活歴を蘇えらせるような機会も大切だと思う。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目：サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

このグループホームは、たった6人の利用者が生活している場であるが、旭川荘という大きな社会福祉法人の組織と体制の中にあり、1ユニットのグループホームとしてのみでは全てを語り得ない。知的障害の子供から大人まで、育児、保育、教育から成人に至る中で不自由な人を一人ひとりの人間としての尊厳を大切に育てている“精神”がある。そこに高齢化社会という環境の中で、高齢者特に認知症の人の尊厳も培っている。

不自由な人、偏見された人を社会からどう守っていくか、一人の人間として失った機能をどう補っていけば社会の中で、本人も家族も堂々と生きていけるかという事に対し、どのようなサービスを提供していけば良いのかは、わが国の中で一番良く分かっている団体であり職員である。

又、地域を大切にし、社会にどのように貢献していったら良いかを学ぶところが多い。

その観点から、このグループホームを今後共しっかりと見守っていきたい。